

# くまもと面白漫遊記

～岩永委員・藤田副委員長のおすすめのこの町・この人～

No.14

熊本地区

## 歴史とすれ違う坪井界限 住む人が住む町の良さを知る それが町おこしの原点

～坪井界限町おこしの会・岡嶋武次郎さん～

人は、生まれ育った町の良さを知らない。  
いや、生まれ育った町だからこそ、知らないのかもしれない。  
よく「再発見」というが、これができるようでできない。  
自分の町・坪井界限を調べると、すごい場所だった。  
それを地図にしてみようと思った人がいる。  
小さな地図に人が集まり、心が集まった。



内坪井界限



岡嶋武次郎さん

## 生まれ育った町をどれだけ知っていますか？ それが岡嶋さんの町おこしのはじまり

坪井界限、そこは、歴史のエピソードがいくつも隠れた不思議な町である。現在、坪井1～6丁目、南坪井、内坪井に分けられた坪井界限には、知る人ぞ知る〈名所〉が点在し、なにげなく〈歴史〉とすれ違うことができる。

その話は後ほど、今回の主人公にゆっくりとうかがうとして、まずは、坪井界限の成り立ちを調べてみよう。

加藤清正公が水田を町屋にした頃から熊本の歴史に度々登場するようになった。藩政時代は下級武家屋敷が建ち並び、その周りを様々な職人町が囲む、どちらかといえば「城下町の暮らしが息づく」町であったろう。通称・仁王さん通りや立町通りには庶民的な店が並び、そこから一つ通りを入ると、閑静な住宅街が続く。武家屋敷が多かった頃の名残りが、町の広さの割にはお寺も目につく。

生まれ育った町、ずっとそこに住んでいると、町と同化してしまうせいか、町の良さが分からない。いつもの通りには、まだまだ知らない歴史や文化が眠っているのかもしれない。永年、内坪井に住む岡嶋武次郎さんは、そんな思いにかられた一人である。岡嶋さんは、トヨタカローラ熊本株式会社の常務取締役、祖父の実家である内坪井に25歳の時に移り住んで以来、この町で暮らしてきた。そして、岡嶋さんの「町おこし」は始まった。

まず、手がけたのは『くまもと市、内坪井ガイドマップ』である。(資料参考) マップを作るため坪井界限を調べてみると、これが面白い。熊本の歴史に深い関わりを持つ〈隠れた名所〉が数多く点在していることがわかった。

今回、「内坪井ガイドマップ」がきっかけで広がった町おこしの輪に入った熊本県伝統工芸館の坂本尚文さん、花工房ウインドアンドローズの川添英臣さん、マップのデザインを担当したアートホーリーの村上守さんも駆け付け、坪井界限への思いを語ってくれた。皆さんが集まった場所は、「坪井1丁目オープンギャラリー」。岡嶋さんの駐車場スペースを利用したものでマップに沿って坪井界限の写真が展示されている。



夏目漱石旧居

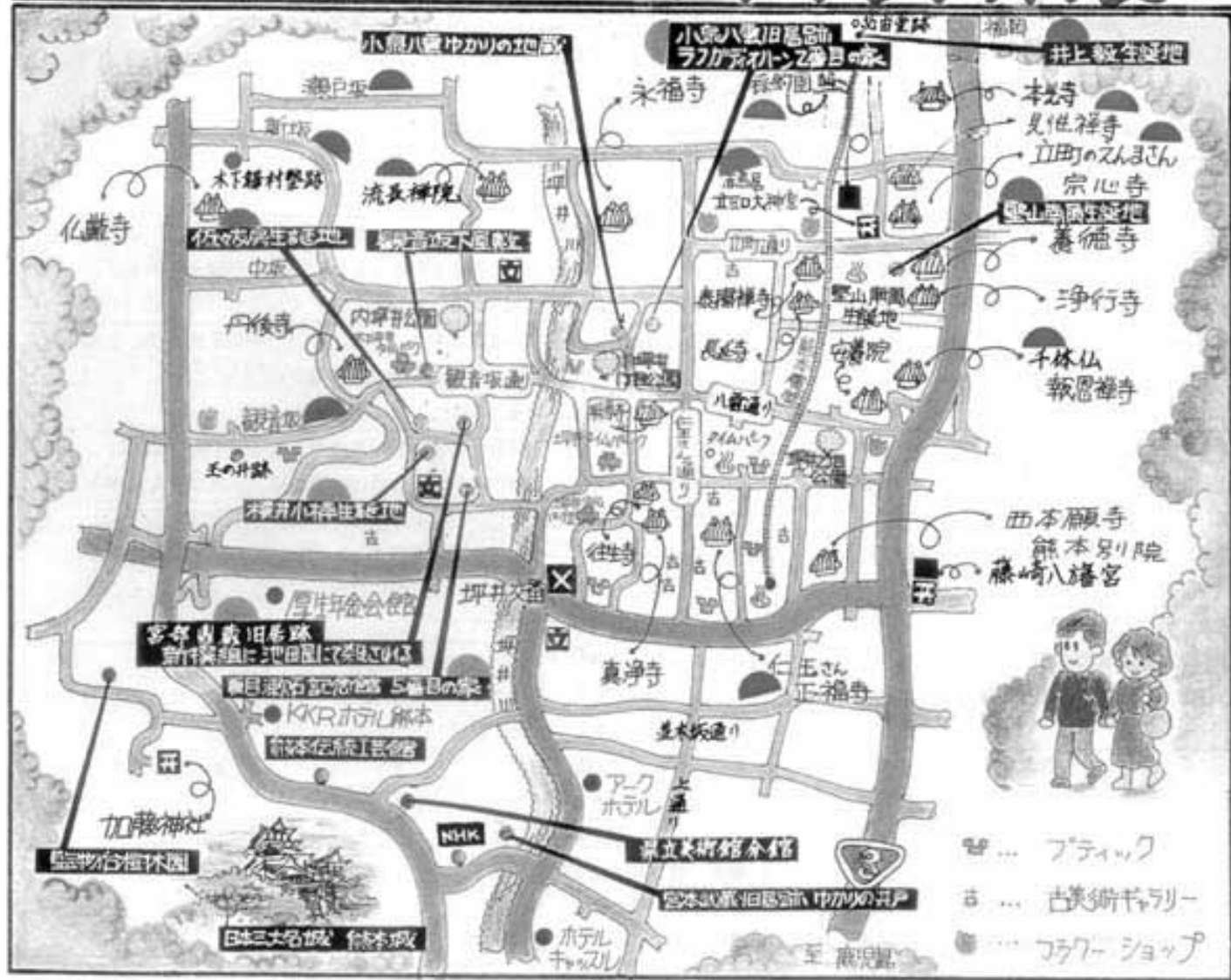


左から岡嶋さん、村上さん、坂本さん



川添さん

# くまもと市 今!ここがまちの! ガイドマップ 内坪井界隈



## 見どころ 紹介

- 「夏目漱石内坪井旧居」
- 「宮部鼎哉邸跡」
- 「小泉八雲旧居跡」
- 「横井小楠生誕地の碑」
- 「佐々友房生誕地の碑」
- 「堅山南風生誕地の碑」
- 「赤鳥居」
- 「井上毅生誕地の碑」
- 「採釣園」
- 「見性寺」
- 「千体仏、報恩寺」
- 「仁王さん」
- 「立町のえんまさん」
- 「流長禅院」
- 「観音坂」
- 「新坂」
- 「瀬戸坂」

発行所 観音坂下屋敷  
 〒860-0077 熊本市内坪井9-46  
 TEL・FAX 096-211-0091  
 E-MAIL: 8004@TLC.TCWeb.NE.JP

制作 岡嶋武次郎  
 協力 アトホーリー 村上 守社長  
 新聞博物館 平山徳二郎館長  
 壺川小学校 大田州深校長  
 監修 郷土史研究家 鈴木 尚先生



- ☞ ... プティック
- ☞ ... 古美術ギャラリー
- ☞ ... フラワーショップ

【夏目漱石内坪井旧居】 漱石は、五高教師として熊本に4年3カ月在住し、6度転居したが、ここはその第5の居（内坪井4-22）。長女筆子がこの家で生まれた。「女々と海鼠の如き子を年めり」の句碑が庭に立つ。  
入場料 大人200円、子供100円。 月曜休館。

【戸部則敬忌跡】 戸部則敬(1820～1884)は、幕末の肥後勤王党のリーダー。鹿児島七瀬の生まれだが、肥後藩兵法者南役となりこの地に住んだ。元治元年、京都池田屋で新選組に襲われ死亡。吉田松陰とも親父があった。

【小泉八雲旧居跡】 明治24年11月、互高教授として来熊した八雲は、当初手取本町に住んだが、3年後坪井1丁目へ引越しした。この家で長男一雄が生まれた。現在は三命保険会社の寮になっている。旧居前に「瓦屋寺の地蔵」と呼ばれる八地蔵があり、八雲の「生と死の断片」に登場する。

【横井小楠牛蔵地の碑】 横井小楠は、文化6年(1808年)に中央女子高校の地に生まれ、14歳までここに住んでいた。江戸時代末期の日本の政治、経済、文化の各方面で活躍し、越前藩(福井県)の財政を立て直した。明治政府でも大事な役目についた。しかし、明治2年に横井小楠の考え方に反対する人達に襲われ暗殺された。

【佐々友房生誕地の碑】 佐々友房は、安政元年(1854年)に中央女子高校の近くに生まれた。明治10年の西南戦争では熊本隊の隊長として、西郷隆盛の味方をし、明治政府ができてからは、青少年の教育のための(同心学舎)をつくった。これが済々響高等学校のはじまり。又、第1回日から衆議院議員となり、生誕地の政治につくした。

【望山南風生誕地の碑】 望山南風は、明治20年(1887年)坪井3丁目の赤鳥居の近くに生まれた。明治31年に壺小(小学校)を卒業。23歳で東京に出て絵の勉強をし、多くの賞をもらった。その後日本学術院となり、母校に「南せい」「雲中富」を贈った。

【赤鳥居】 立石口大神宮の鳥居。坪井4町通り(坪井3丁目と4丁目の境)にあり、藩政時代はここに山田口御番所が置かれていた。参勤交代の行列も、ここから隊列を整えて普門街道へ向かったという。

【井上毅生誕地の碑】 井上毅は、天保14年(1843年)坪井4丁目、現在の市立高校内で生まれた。文部大臣となり、大日本帝国憲法や教育勅語の草案を作ったことで有名。明治28年没。旧高校内に生誕地の碑、産湯の井戸がある。

【深釣園】 細川藩家老、兵衛(興田)監物(別邸)。現在は市立高校の敷地となっている。池の裏側にF基宇も残っている。敷地内には茶室もあり、学問所、必由並邸の地もある。

【兵性寺】 坪井4丁目、京都妙心寺の末寺で、兵衛家の菩提寺。十代品客をはじめ歴代の墓がある。墓容は幕末肥後実学党のリーダーで、ペリリ来航のおり、落兵3百名を率いて、相州海岸の警備にあたった。

【丁体仏、寂恩寺】 坪井3丁目にある大徳寺の木寺。和尚が雷を退治したという井戸があり、その形が壺に似ているところから「坪井」の名前が起ったと伝えられる。漂白の俳人、榎田山頭火が程度した寺で、境内に「けふも托鉢こもかしこも花ざかり」の句碑がある。

【仁王さん】 正式には正福寺といい、寛永9年(1632)細川家の安全を祈願して建てられた寺。門の両脇にいかめしい仁王さんが建っている。西南戦争では疎閑して、戦線をはなれており、通りを仁王さん通りと呼ぶ。

【立町のえんまさん】 坪井4丁目宗心寺のこと。7月16日、17日の伽藍さんのお祭りには地獄、極楽の大絵図が開帳される。境内には、放牛地蔵がある。

【流長禅院】 壺川1丁目、壺川小学校裏にある曹洞宗の寺。歌人、清沙白舟の歌碑がある。境内に肥前龍造寺家の墓、嘉悦天房の墓などがある。

【観音坂】 京町堀五所の高い堤に沿って続く急な坂を観音坂という。ここは、熊本城ができる前から観音様がまつられていたのが名前の由来。しかし、今はその観音様はない。この坂の中腹には加藤清正夏月の玉の井があり、茶の湯をくんだといわれている。

【新坂】 市営バス第一環状線が通る上熊本から内坪井へ下る坂。池田駅(現上熊本駅)開設のときに作られた。東に立田山、遠くに阿蘇の山々が見渡せる景色の良いところ。夏目漱石が明治29年4月、五高教授として来熊した際、池田駅から人力車での坂をくだりながら「熊本は森の都だな」と言ったといわれる。

【瀬戸坂】 京町堀川から寺原(壺川1丁目)へ抜ける急傾斜の坂。寺原一帯が船のたまり場であった時代、瀬戸(背戸)があったので、この名前がついたという。坂の途中に浅川玄耳の旧居跡あり。

岩永委員 Q：「内坪井ガイドマップ」を作ろうと思ったキッカケは？

岡嶋さん A：坪井界限はいい町なんです、ずっとそう思ってきました。でも、あまり知らない。そこに住む人ほどその町の良さを知らないと思い、いろいろ内坪井を調べたら、改めてすごい場所なんだ！と思いました。

横井小楠の生誕地、夏目漱石の旧居、佐々友房の生誕地などなど、歴史がある町なんです。

そこで、坪井界限の地図を作ろうと思い立ち、4年前壺川小学校の太田校長、熊日新聞博物館平山館長に相談にいくと、太田校長も同じような地図を作っていたんです。驚きました。

小学生も分かるような説明書きを加えたら、というアドバイスがあり、郷土史研究家の鈴木喬先生に監修をお願いしました。

デザインは、村上守さん（アートホリー）をお願いしました。もちろん、皆さん、ボランティアです。

岩永委員 Q：とても分かりやすいガイドマップですね。

岡嶋さん A：こうしてマップを作れば、その土地ならではのマップができますよね。

坪井界限の史跡が分かり、歴史との結びつきがわかるマップだと思います。

坂本さん A：坪井界限は、伝統工芸が息づく町です。

歴史との結びつきがいっぱいある町なんです。

村上さん A：マップは、次回ローマ字をいれた大きなものに改良しようと思います。

人が集まるのは、歴史、食、自然……。

それらを盛り込んだものにしようと思います。

## **マップから坪井界限町おこしの会へ さらに森の都の復元へ でも、町おこしに完成はないんです。**

藤田副委員長 Q：このマップを「町おこし」の出発点に、岡嶋さんたちの「町おこし」へと広がったんですね？

岡嶋さん

A：そうなんです。マップを作った後、みんなで相談して「町おこしの会」を作りました。それが《坪井界限町おこしの会》です。

この界限のいろんな方に声をかけました。坪井に住んでいない方でも坪井の歴史に興味のある方なども参加してくれました。

目的は、緑と風格のある町並みを作りたいということです。そして、坪井界限に「移り住みたい」という人が出てくることです。

《坪井界限町おこしの会》は「心豊かな緑と史跡の町並み」をめざして、自分たちの手で、緑豊かな、個性ある史跡を生かした、学習できる〈町おこし〉をしたいと願っています。



岩永委員

Q：具体的には？

岡嶋さん

A：緑いっぱい運動、花いっぱい運動（花のプランターをふやそう）、史跡案内板の設置運動、やすらぎと癒しの場所づくり運動（休憩できる場所づくり、公園にトイレを設置しよう）です。



中でも「緑いっぱい運動」は、3年前から「紅葉の木をふやそう」ということで、60本ほどの紅葉の木を界限の個人の家、会社や学校、伝統工芸館などに植えさせて頂きました。希望者には無料で差し上げています。



「紅葉」は庭木の王様です。

平安時代にそれまで「黄葉（モミジ）」と書かれていたものが、艶やかな平安



文化により「紅葉」と書かれるようになったそうです。紅葉は肥後武士たちがこよなく愛した樹木、やはり坪井には紅葉が似合う、と思い、紅葉をふやそうと頑張っています。

自分たちが住んでいるところをもっと美しく自慢できる住んでいて良かったと思える町にしたいと……。



立町の赤鳥居（通称）

川添さん

A：自分で紅葉を植える体験、これは自分にとって貴重でした。それまで気にも止めなかったのに、風が吹いたりしたら、紅葉が気になって、見に行くんですよ。自分で驚きました。厚生年金会館にも許可をもらって、植えにいきましたね。みんなで紅葉を植えていく姿は感動的です。紅葉が町を飾るのが死んだあとの楽しみですかね（笑）。



仁王さん通り

岡嶋さんを中心にさらに話ははずんだ。《坪井界限町おこしの会》はこうして、みんなと相談しながら進めてゆくのだからということが納得できるほど、皆さん、熱い。それぞれに「町おこし」への思いは広がっているようだ。

坪井界限が、熊本の歴史を築いてきた町・熊本の個性「緑」にこだわる姿勢が伝わってくる。

藤田副委員長 Q：これから《坪井界限町おこしの会》の広がり、最終目標は？



小泉八雲ゆかりの地藏堂

岡嶋さん

A：いろんな方がメンバーに入ってもらったので、心強いですね。坪井界限が魅力を感じる町になっていくようにメンバーと相談しながら進めていきます

が、次は、「空家マップ」を作りたいと思っています。

こちらからこんな店を、とお店を指定して出して頂けるような。一言でいえば、伝統工芸館の下町にしたいですね。めざす最終地点をしいてあげれば「森の都の復元」です。森の都と名付けた漱石が住んでいた町ですから。

でも、「町おこし」に完成はないと思いますよ。



観音坂

岡嶋さんは、いわば「住人の達人」である。キャンバスに絵を描くようにイメージしていく坪井界限は、緑豊かで人情味のある町、それでいて、こびないたくましさを持った町、そんな気がしてならない。



堅山南風画伯生誕の家

夏目漱石や小泉八雲が暮らし、横井小楠や画家の堅山南風、佐々友房らが生まれ、仁王さんがいかめしい表情で立ち、立町の赤鳥居が堂々とした姿を見せる坪井界限。散歩気分で、歴史とすれ違える町がここにある。坪井の歴史散策をじっくりとしてみたいと思い、このマップを手にした時、岡嶋さんたちのことを思い出してほしい……。



横井小楠生誕地